(公開学習) 第1学年2組 国語科学習指導案

授業者 林 多恵子

1年2組 教室

1 単元名 そうぞうしてかく 「ようかい はっけん」

2 授業構成

(1) 教師と教材

1年生の児童にとっては、順序が分かるように語や文の続き方に注意して文や文章を書くこと、基本的な文型を用いて文章を書くことは重要である。しかし、イメージ豊かに書く活動を行うためには、想像する、イメージをことばにする、イメージを広げる、そのイメージにことばを付与したり、擬音語などにより新たにことばを作り出したりする中で、表現することの楽しさを感じさせることも必要である。

本単元では、児童が想像を巡らし、楽しく表現しようとする態度を育てられるように、自分が想像した妖怪を使って書く単元を設定した。妖怪とは、人知では解明できない奇怪な現象または、異様な物体であり、得体の知れない全くわからないものに、名前や特徴を与えたものである。つまり、妖怪とは、日本人の想像力・空想力の結晶であり、想像力・空想力を使って書く力を高めたり、楽しみながら話す力を育てるのにぴったりの素材である。想像したことを表現して伝えるという目的意識と、友達に対して表現するという相手意識を持たせ、学ぶ意欲の高まりをねらった。

本時の学習では、3、4人の少人数グループでそれぞれが想像して作り出した妖怪を利用し、お話をつなげていく。今まで1年生では、二人組での話し合い活動を中心に、相手に分かるように話すことや、相手の話していることを受けとめて聞く対話力を身に付けさせてきた。それをさらに発展させ、数名で話を続けさせ、かかわりあうことで、豊かに想像を膨らませたイメージを伝えるという「活動」からのアプローチで授業を構成する。その際、どのように話せば、自分の作ったお話が、友達の話に続いていくのかという視点で活動を考え授業していく。また、協力してお話作りすることを活動の中心に置いたのは、今までのお話作りの経験で、想像してお話を作ったり自作絵本でお互いの想像を交換したりする楽しさ、友達に評価される喜びを知っている子どもたちにとって、楽しんで意欲的に取り組める内容だと考えたからである。

(2) 子どもと教師

本校国語科では、児童の意欲を喚起する学習材の工夫・開発を行い、児童の「ことば」に対する感性を磨き、深く追求する力を育てていくことに取り組んでいる。低学年児童の書くことの基本は楽しんで表現しようとするところにある。表現する喜びを感じさせることが、意欲や関心を高めることにつながると考える。

これまでに児童は、教科書に書かれた事柄を正しく読み取ったあと、教科書の文型をもとに、図鑑を完成させたり、身の回りの生き物の様子をよく見て、今までより少し長く書くことも経験

した。国語科の学習だけでなく、他教科・領域と関連づけながら多くの場で書く活動に親しんできた。その結果、経験したことや調べたこと、観察したことなどを詳しく書くことができるようになり、書かれている内容を理解することにも慣れてきている。しかし、思いや考え、想像したことなどについては、何をどう表現して良いかわからず、書いたり話したりすることに抵抗を感じる児童もある。また、個人差が大きいため、全員が学習を楽しむことが出来ない状態もしばしば起きていた。そこで、本単元の学習においては、皆が意欲的に取り組める題材を取り上げ、楽しんで表現できる力を育てていきたいと考えた。

本時の学習では、これまでの学習の中で考えた自分のオリジナル妖怪を登場人物にしたお話を、友達と一緒に作り上げていくことにより、楽しんで話をさせたい。また、グループの人の話をしっかりと聞き、お互いの工夫やおもしろいところに気づいたりするようにしたい。そのため、グループ学習を取り入れ、スムーズにお話作りができるようにした。3、4人のグループで話を作ることで、お話を作る意欲が高まったり友達のお話を参考にしたりできるだろう。また、表現したものを絵本などにまとめることにより、他者を意識した表現の仕方を学習していく。できた作品に質を求めるのではなく、友達とお話をつなげると楽しいという気持ちの高まりを大切にしたい。また、文章表現力を養うだけでなく、少人数でアイデアや意見、感想を出し合うという児童同士の「かわり合い」を重視し、人のお話を関心をもって聞いたり、語や文の続き方に注意して友達と話を続けたりできるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てたい。

(3) 子どもと教材

児童にとって、想像したことを書くことということの良さは、大きく分けて三つある。まず一つ目は、妖怪そのものが児童にとって想像をかき立てる大変興味深く楽しいものであることで、それに関わる学習に対して関心・意欲を持ち続けられること。二つ目は、想像して書くということは、「こう書かなくてはいけない」という規制がなく、児童が思ったことを思いのまま自由に書けるということ。三つ目としては、ことばに対する感性を磨き、生きたことばの働きを育てていくために、ことばに対する実感をもって非日常的な語彙の世界にふれ、響きやリズム、雰囲気を楽しむことができることである。

本時の学習では、友達と関わりながら、楽しんでお話作りをさせたい。しかし、自らどんどん考えられる児童もいれば、想像を広げて自分で文章を作ることに抵抗を示す児童もいると思われる。そこで、児童の学習状況をよく把握し、個に応じた学習を進めていきたい。空想や想像を膨らませて場面のお話を作ったり、友達のお話に自分のお話をつなげることができるというねらいを達成するため、本時における問題をつぎのように設定した。

ともだちといっしょに、ようかいのおはなしをつくろう。

上記の問題に対して児童には次のような活動の様相が見られるだろう。

- A 自分の考えた妖怪が出てくるお話を想像し、順序が分かるように、語や文の続き方に注意してお話を作ろうとする。
- B 自分の考えた妖怪が出てくるお話を想像し、友達のお話に続けて話をする。
- C 自分の考えた妖怪が出てくるお話をする。

Aの様相に対する支援としては、自分の作ったお話を膨らませていき、さらに、次の友達の話が続けやすくなるような表現の工夫をしてみるように促したい。Bの様相に対する支援としては、「すると」「とつぜん」「そこで」など、前のお話につながることばも考えながら前の人に話をつなげられるようにしたい。Cの様相に対する支援としては、どんなストーリーになってもよいことを伝え、自由に自分なりのお話作りができるように意欲を持って取り組ませたい。いろいろなパターンでお話作りをすることで、自分たちなりのお話作りへの意欲を湧かせたい。また、グループのお話作りが活発に続いているグループを紹介することで、自分たちもよりよいお話を作りたいという意欲を湧かせ、進んでお話を作り表現する力を高めていきたい。

3 単元の目標

- ・お話作りに関心を持ち、楽しんで表現しようとする。
- ・空想や想像を膨らませて、場面のお話を作ることができる。
- ・発表したり感想を友達同士で交換したりして、お互いのお話のよさを見つけることができる。

4 学習計画（全9時間）

第1次 想像してお話を作ることを知り、学習計画を立てる。（1時間）

第2次 妖怪の出てくるお話を聞き、その姿を想像する。（1時間）

名前から妖怪の姿を想像し、絵やことばで表現する。（1時間）

オリジナル妖怪を考え、妖怪ごっこを楽しむ。（2時間）

第3次 小グループに分かれてグループでお話を作る。（2時間）・・・本時1 / 2時間

第4次 それぞれの作った妖怪が登場するお話をグループで完成させる。（2時間）

5 本時の学習について

（1）本時の目標

友達同士で楽しんでお話作りをしたり、お互いのお話の良さを見つけたりすることができる。
空想や想像を膨らませて場面のお話を作ったり、友達のお話に関わり自分のお話をつなげたりすることができる。

（2）本時の活動

数名のグループで、それぞれが想像して作り出した妖怪を利用し、お話をつなげていく。

（3）期待される児童の様相

- A 自分の考えた妖怪が出てくるお話を想像し、順序が分かるように、語や文の続き方に注意してお話を作ろうとする。
- B 自分の考えた妖怪が出てくるお話を想像し、友達のお話につけて話をする。
- C 自分の考えた妖怪が出てくるお話をする。

(4) 本時の展開 (教師の意図 全体への支援 個への支援)

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
<p>1 自分の考えたオリジナル妖怪をいくつか紹介する。</p>	<p>画用紙に描いた妖怪の名前や特徴を紹介し合い、友達が考えた妖怪に興味を持てるようにする。 名前や様相に特徴が表れている妖怪を取り上げる。</p>
<p>ともだちといっしょに、ようかいのおはなしをつくろう。</p>	
<p>2 自分のお話を考えたり、友達の話に続く話を考える。</p> <p>活動</p> <p>A 自分の考えた妖怪が出てくるお話を想像し、順序が分かるように、語や文の続き方に注意してお話を作ろうとする。</p> <p>B 自分の考えた妖怪が出てくるお話を想像し、友達のお話につけて話をする。</p> <p>C 自分の考えた妖怪が出てくるお話を想像する。</p> <p>3 作った話の中で一番好きな話を、クラスのみんなに紹介する。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>最初は隣同士の二人組で試みることにし、何を理解させたい。</p> <p>イメージ豊かにできているところを取り上げ、次に教師が入り3人でつなげてみる。</p> <p>3, 4人のグループで、一人ずつ「はじめ」「つぎ」「それから」と、順番にお話作りさせる。前の子どもと話が続いているかどうか確認する。順番を変え、話を作らせる。</p> <p>「すると」「とつぜん」「そこで」というような接続詞を使うと、話が続きやすいことに気づかせる。</p> <p>お話作りが滞っているグループには、教師が中に入り、イメージを引き出しながら一緒にお話作りをする。</p> <p>話の内容よりも、話がスムーズに続いたかどうかを取り上げたい。</p> <p>場面の絵を準備するなど、発表の仕方を工夫し、発表しやすい雰囲気を作る。</p> <p>声の大きさに気をつけさせ、みんなに聞こえる声で話ができるように声をかける。</p> <p>本時の学習を振り返り、次時の学習への意欲を持たせたい。</p>